

1) 研究課題名

卵巣成熟奇形腫に合併した粘液性腫瘍の免疫組織化学的解析

2) 研究の目的と意義

当研究室では、卵巣成熟奇形腫に合併した粘液性境界悪性腫瘍の遺伝学的解析から成熟奇形腫に合併した粘液性境界悪性腫瘍の一部は奇形腫由来であることを証明しました。同時に、成熟奇形腫に合併する粘液性境界悪性腫瘍は、CDX-2, Cytokertin(CK)20 が陽性となり、免疫組織化学的に、奇形腫を合併しない卵巣原発粘液の粘液性境界悪性腫瘍と異なる染色性を示すことも明らかにしました。今回、報告例と同様の成熟奇形腫に合併した腸型の粘液性腫瘍(5例)に加えて、成熟奇形腫に合併した頸管腺型の粘液性腫瘍(5例)、奇形腫と反対側の卵巣に発生した奇形腫を合併しない粘液性腫瘍5例についてCK7, 20 CDX-2に加えてMUC-2, MUC-6, MUC5ACなどの粘液形質について免疫組織化学染色による検討を加え、染色性の差異を検討する計画を立てました。研究に使用するパラフィンブロックは、すべて江南厚生病院の症例の診断のために用いたブロックを借用します。得られたデータは、卵巣粘液性腫瘍の起源に関する研究データとして用います。また、データの一部は、将来の溶離診断の補助になると考えます。

3) 研究の方法

検討に用いる卵巣腫瘍15検体のパラフィンブロックは、愛知県厚生連江南厚生病院で、平成22年～平成26年の間に病理診断に用いたホルマリン固定ブロックを使用します。ブロックから切片を薄切し、免疫組織化学染色(CDX2, Cytokeratin7,20, MUC2, MUC6, MUC5AC,)を施行し、顕微鏡像をデジタル顕微鏡撮影装置で取得し、計測値を統計学的に比較検討します。

4) 倫理的配慮

研究に用いる材料からは、顕微鏡観察で得た形態学的情報のみを取得し、遺伝子情報などは検索しません。症例の識別に氏名は用いず、新たに付した検体番号のみを使用し、第三者による個人の特定ができないように配慮します。臨床所見、病理情報も匿名化されたデータとして扱います。

5) 研究機関

名古屋大学医学部保健学科

6) 苦情等の連絡先

名古屋大学医学部保健学科庶務係

電話番号：052-719-1504

名古屋大学医学部保健学科検査技術科学専攻病因・病態検査学講座

長坂徹郎

住所：名古屋市東区大幸南一丁目1番22号

電話番号：052-719-3152, FAX:052-719-3152